

認知症フレンドリージャパン サミット2018



2018年9月1日（土）、2日（日）
川崎市スポーツ・文化総合センター カルッツかわさき

Supported by
 日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



認知症フレンドリージャパンサミット2018

認知症フレンドリージャパンサミット(DFJS)は、セクターや立場を超えて認知症の課題に取り組む人や組織が集まる日本最大のイベントです。サミットでは、集中的に短時間でたくさんのことを議論します。ワークショップが中心で、参加者全員で認知症に関する課題を多面的に議論します。きっと参加者の皆様の今後の活動につながるヒントが得られるはずです。介護関係者だけでなく、企業や認知症研究者、行政関係者と色々な方々と出会え、一緒になり、立場を超えた活動に結び付ける良い機会です。ぜひ、お気軽にワークショップに参加して、あなたなりの意見、考え方をぶつけてみて下さい。



認知症フレンドリージャパンイニシアティブ

DFJI

認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ(DFJI)は、2013年11月6日に発足しました。認知症をとりまく課題を、医療や介護の枠組みの中だけで考えるのではなく、社会のデザインの問題と捉え、私たちの暮らし方を規定している企業・自治体・NPOなど様々なセクターから人が集まり、知恵を出し、実験をしながら、より良い未来を作っていくことを目的にしたネットワークです。

認知症を自分とは切り離れた“ヤッカイゴト”と捉えると、「認知症になったらおしまい」「誰が負担するのか?」「薬はいつできるのか?」という議論になり、そこに答えは見つかりません。しかし、自分も認知症になるかもしれないという“ジブンゴト”として捉えれば、誰かが解決してくれるのを待つのではなく、認知症の人も含め、誰もが暮らしやすい社会を作るための知恵をみんなが出し合えるようになるはずです。

認知症フレンドリーとは、単に認知症の人にやさしい人が多いということではなく、認知症の人が必要以上に自分の障害を感じずに、“普通の暮らしができる”ような機能がビルトインされているという意味です。

DFJIは、認知症の課題を起点として、様々な人々はプロジェクトを作り、情報やリソースを交換し、実験を繰り返しながら、私たちの未来を創り上げていきます。

“認知症フレンドリーな社会をつくる” 【DFJIマンスリーサポーター趣旨書】

世界でもっとも早く超高齢社会となった日本は、認知症をめぐる様々な社会的な課題に対し暗中模索の状態にあります。さまざまな人の懸命の努力も誰もが認知症の当事者となる今後の状況に対して十分ではありません。特定の組織や機関だけでは手に負えないのです。

DFJI(認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ)は、2013年の発足からこれまで、従来の枠組みを越え、様々な職種・立場・セクターの人が関わる価値を訴えてきました。そして、分野の垣根を超えたコラボレーションにより多くの成果を上げています。

その中には、認知症の本人や家族、周囲の人たちのインタビューから制作した「旅のことば 認知症とともによりよく生きるためのヒント」があり、川崎市とともに全国でも例をみない認知症ケアパス「認知症アクションガイドブック」も作成しました。年に一度の認知症フレンドリージャパン・サミットには毎年延べ200名近くの方が参加、十数件を越える先進的な取組みが紹介され、そこで生まれた対話から次の新しい取組みが生み出されています。セクターを越えたコラボレーションの総時間は2,000時間を越えるでしょう。リソースを持ち寄りながら行う活動として想定以上のインパクトを生み出してきたと自負しています。

その一方で、現在の体制のまま活動を拡大するのに限界を感じています。特に責任をもってプロジェクトの運営に取り組むメンバーの稼働時間と、活動を世間に広めるための広報資金が足りません。これを補い、認知症フレンドリーな社会を作る活動を前進させるため、2017年9月より支援制度「マンスリーサポーター」を開始しました。

DFJIの事務局あるいは各プロジェクトのメンバーとして些少のご支援と稼働時間のお約束をいただく、あるいは、毎月一定額のご支援のみをいただくものの2種類に別れます。ぜひともマンスリーサポーターにご入会いただき、DFJIの活動を一緒に作っていくことにご協力ください。

※DFJIマンスリーサポーターは個人向けです。企業としてのサポートは別途ご相談ください。

マンスリーサポーター種別	
マンスリーサポーターACT スタッフ/プロジェクトメンバー/サポートメンバーとして 毎月一定時間のご支援をお願いします	月額 250 円
マンスリーサポーター1000～10000 毎月一定額の資金をご支援いただきます	月額 1,000～10,000 円

入会お申し込み方法	
お申込みはスマートフォンまたはパソコンから https://pne.club/dfji ※公式サイトからもたどることができます。 ※カード集金に株式会社手嶋屋提供の「ピーネクラブ」を利用しています	

会場案内

川崎市スポーツ・文化総合センター
カルッツかわさき

4階



3階



2階



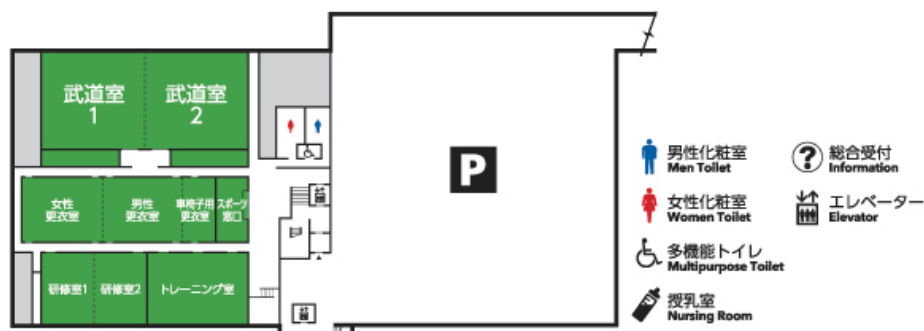
ロビー階

1階



1階

B1階



会場周辺地図

コンビニの位置を下記に示します。



第1日目 9月1日（土曜日）

スケジュール

	中会議室 2、3	大会議室 1	大会議室 2
9:00～9:30	受付		
9:30～10:00	オープニング セッション		
10:00～11:30	1-A1 「旅のことば」活用ワー クショップ	1-B1 Deep型ネットワーク（J- DEEP）	1-C1 3枚の葉っぱ ワークショップ
11:30～12:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
12:00～13:00	昼食		Zoom体験
13:00～14:30	1-A2 認知症アクション ガイドブック	1-B2 美・Myself プロジェクト	1-C2 デザインを通して「わた し」を発見する
14:30～15:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
15:00～16:30	1-A3 ゆるいネットワーク をつくる	1-B3 住まいと コミュニティ	1-C3 先進テクノロジー 10年後の介護・福祉を変えら れるか
16:30～17:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
17:00～18:30	1-A4 100DFC	1-B4 リビングラボ	1-C4 映像という隣人
18:30～19:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
19:00～20:30	1-A5 特別イブニング セッション 植えるフェアイノベーシ ョン		
20:30～21:00	初日振り返り 初日クロージング		

1-A1

「旅のことば」活用ワークショップ

「旅のことば」とは、認知症とともによりよく生きるためのヒントを40の「ことば」としてまとめものです。「認知症とともによりよく生きる」ことについて考えたり、具体的なアクションについて話し合いやすくなります。

ワークショップを通じて、実際に「旅のことば」を体験してもらうとともに、全国の活用事例を紹介しながら、それぞれの現場で活用していくためのポイントを紹介します。

2018年9月1日（土）10時00分～11時30分 中会議室 2、3

登壇者



金子智紀

慶應義塾大学大学院

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程。井庭崇研究室所属。「旅のことば」作成メンバー。NPO法人認知症フレンドシップクラブ 本部スタッフ。Dementia Friendly Japan Initiative メンバー。



1-A2

診断からの空白期間をなくせ！

認知症アクションガイドブック

認知症の診断を受けた後、気持ちが落ち込んでしまう空白の期間があることが言われています。そこで川崎市は、認知症の診断を受けた方が前向きな気持ちになれるよう、当事者の体験談や医師、地域包括支援センターなどの声を盛り込んだ「認知症アクションガイドブック」を作成しました（セッション参加者には川崎市外の方にも無料配布します）。

今年は日本財団の助成を受け、「認知症アクションガイドブック」の実践編を作成していくことを企画しています。

本セッションでは、「認知症アクションガイドブック」を作成したメンバーが集まり、次の一步として何を目標しているのか、どのような取り組みを進めていくのかを、参加者を交えて話し合っていきます。特に、認知症の診断後どのように気持ちで前向きになっていったのか、そのきっかけの生み出し方、起きた変化とその伝え方について話し合いたいと思っています。

2018年9月1日（土） 13時00分～14時30分 中会議室 2、3

オーガナイザー



岡田 誠 氏
DFJI 共同代表

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ共同代表理事。セクターを越え、認知症に関わる社会的課題を起点としたプロジェクトを推進している。「旅のことば」（共同編者）。富士通研究所エキスパート、国際大学GLOCOM客員研究員、慶應SFC研究所上席所員。

登壇者



角野 孝一
川崎市役所

社会福祉士。川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域リハビリテーション担当係長。2006年中央大学総合政策学部卒業。同年川崎市役所入庁。これまで、認知症施策や障害者福祉に携わる



黒川 容輔
学校法人敬心学園
臨床福祉専門学校

言語聴覚士。東京都言語聴覚士会失語症者向け意思疎通支援事業委員。世の中のあらゆる情報がわかりやすくなることを目指して活動している。臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科副学科長。

1-A3

ゆるいネットワークをつくる

認知症の当事者である本人が集まり、自分たちについて話をする場が少しずつ増えてきています。そんな本人同士の活動が地域を越えてつながることで、お互いを元気づける効果も期待できます。

一方で、そんな集まりや活動をさらに増やすには、工夫や知恵がもっとたくさん必要です。また、具体的にどのようなつながり方、活動の仕方が良いのかも考えていく必要があります。

本セッションでは、当事者を中心としが活動を拡げるために、新宿・多摩・町田で、地域をゆるやかにつなぎながら、認知症当事者の皆さんがしていること、考えていることをお伝えします。

2018年9月1日（土） 15時00分～16時30分 中会議室 2、3

オーガナイザー



岡田 誠

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ共同代表理事。セクターを越え、認知症に関わる社会的課題を起点としたプロジェクトを推進している。「旅のことば」（共同編者）。富士通研究所エキスパート、国際大学GLOCOM客員研究員、慶應SFC研究所上席所員。

登壇者

神矢 努 : 新宿区
中田 哲行 : 多摩市
市川 美津子 : 町田市
富田 文子 : 町田市
松本 礼子 : 町田市



1-A4

100DFC (Dementia Friendly City)

認知症があっても、“普通に暮らす”ことができる地域環境「認知症フレンドリーコミュニティ(DFC)」をつくる動きが国内外で広がっています。セクターを超えて、世代を超えて、自分たちでまちをつくっていくためにはどうすればよいのか？

100DFCは、日本で、すでに取り組んでいる地域、これから取り組んでいる100の地域を横につなでいこうというムーブメントです。

<https://dac.tsukuba.ac.jp/100dfc/>

このセッションでは、日本のDFCの今をお伝えし、参加された皆さんの地域と一緒に、日本のDFCを前に進めるためのさらなる一歩を考えたいと思います。

2018年9月1日（土） 17時00分～18時30分 中会議室 2、3

登壇者



徳田雄人
DFJI共同代表

NPO 法人 認知症フレンド
シップクラブ理事/認知症フ
レンドリージャパン・イニ
シアティブ共同代表



1-B1 日本におけるDEEP型ネットワークの広げ方 (J-DEEP)



英国では、英国各地の社会活動をする認知症当事者グループをつなぐDEEP (Dementia Engagement and Empowerment Project) というネットワーク活動が拡がりつつあります。

このセッションでは、英国におけるDEEPの活動事例を参考に、日本におけるDEEP的なネットワーク活動の進め方・広げ方について考えていきたいと思います。

セッションではまず、英国中部の人口40万人ほどのヨークという街で行われているDEEPグループ（日本でいうところの”本人会議”に相当する）の活動を紹介します。

その上で、英国各地のDEEPグループの認知症当事者の方たちが中心になって作成した冊子「一緒にインパクトを生み出そう ディープ (DEEP) ネットワーク 認知症社会活動の学びを共有する」の内容を確認しながら、日本ではどのような取り組みが可能かを参加者とともに確認していきたいと思います。

※ 部数に限りがありますが、セッションでは、冊子「一緒にインパクトを生み出そう ディープ (DEEP) ネットワーク 認知症社会活動の学びを共有する」も提供したいと考えます。



2018年9月1日（土） 10時00分～11時30分 大会議室 1

登壇者



岡田 誠

認知症フレンドリー
ジャパンイニシアティブ

認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ共同代表理事。セクターを越え、認知症に関わる社会的課題を起点としたプロジェクトを推進している。「旅のことば」（共同編者）。富士通研究所エキスパート、国際大学GLOCOM客員研究員、慶應SFC研究所上席所員。



1-B2 美・Myselfプロジェクト

～おしゃれができる居心地よい時間を創る～

「おしゃれをすること」は、生活に絶対必要なものではなく、贅沢品・嗜好品という個人的な価値観に影響されるものです。

「認知症の人にやさしいまち」という言葉からは、生活環境のことをイメージされる方も多いと思いますが、生活環境と精神的な環境を結びつけて考える人は少ないのではないかと思います。

本セッションでは、昨今少しずつ取り上げられている高齢者や認知症の人への「おしゃれ」というキーワードをもとに、おしゃれと精神的な環境を結びつけ、「タッチ」「香り」を体感していただきながら、これまで実施している美・Myselfプロジェクトの取り組みを共有します。

「おしゃれができる居心地のよい時間」について、参加者それぞれが考えるきっかけになることを目的としています。

2018年9月1日（土）13時00分～14時30分 大会議室 1

登壇者



浦野典子
Ciel clair

Ciel clair 主宰。
NPO法人認知症フレンドシップクラブ理事。
化粧品販売、エステティシャン、エステティック教員を経て2010年開業。誰もが、美容を通じて、こころ豊かに過ごせる社会を目指し事業を展開。また、2013年NPO法人認知症フレンドシップクラブ豊中事務局を設立。「認知症にやさしいまちづくり」に取り組む。



1-B3

認知症の人にやさしい住まい とコミュニティ

住まいは認知症の人にとって生活の基盤であり、「認知症の人にやさしいまち」の不可欠な要素の一つです。しかし、これまで特定の施設を除いて、とりわけビジネスセクターとして住まいを実際にデザインしたり、運用する側との対話はほとんどありません。

本セッションでは、認知症の人の住環境に関する研究に取り組む研究者と、英国の「認知症の人にやさしいデザイン」を取り入れた住居等の開発と販売、運営に取り組むディベロッパー、そして実際に認知症の人にやさしい住まいの設計に取り組む建築士にお集まりいただき、それぞれの知見と理念を共有します。

そして、フロアとの対話を通じて、「認知症の人にやさしい住まいとコミュニティ」の実現に向けたヒントときっかけを、それぞれの参加者が得ることを目的とします。

2018年9月1日（土） 15時00分～16時30分 大会議室 1

オーガナイザー



河野 禎之
筑波大学

臨床心理士。筑波大学助教。専門は認知症の認知機能障害及び行動・心理症状、QOLのアセスメント、認知症の人と家族のダイバーシティ・インクルージョン、認知症フレンドリー・コミュニティの評価等。Dementia Friendly Japan Initiativeメンバー。

登壇者



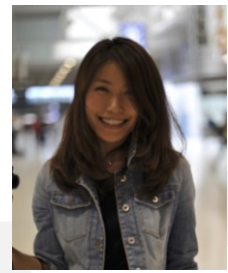
大島 千帆
埼玉県立大学

社会福祉士、精神保健福祉士。日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科准教授。専門は、福祉住環境、認知症のケア環境。



奥村 佳明
東急不動産株式会社

ヘルスケア事業本部シニアライフ事業部課長補佐。2004年早稲田大学卒業。同年東急不動産株式会社入社。2007年より現職。これまでに10物件以上のサ高住、有料老人ホーム等の事業企画・計画推進・開業準備等に携わる。



堺 万佑子
株式会社シルバーウッド

三重大学工学部建築学科卒業。建設会社を経て、2005年株式会社シルバーウッド入社。2011年より自社運営のサービス付き高齢者向け住宅「銀木屋」の設計および運営サポートを担当。

1-B4

リビングラボ： マルチセクターによる共創の仕組み

認知症の人にとって暮らしやすいまち・社会を実現するためには、認知症の当事者や支援者の方々と企業や行政が「協働」することが重要ではないでしょうか？

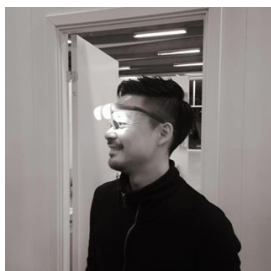
「リビングラボ」は、地域住民・企業・行政などがセクターの垣根を越えて、共に社会的課題の解決を目指す仕組みあり、様々な人や組織が協働しながら、認知症の人にやさしいまちをつくるために有効な手法になると考えています。

本セッションでは、国内のリビングラボ研究をリードするNTT（サービスエボリューション研究所）が、リビングラボ最先端の地・北欧デンマークの大学（デンマーク工科大学）と共同開発した「リビングラボの手引き」（リビングラボを実践するためのヒント集）をご紹介します。

さらに、「リビングラボの手引き」を使った対話型のワークショップも行い、認知症の人にやさしいまちづくりのためにリビングラボがどう活用できるか？を一緒に考え、未来のためのアクションのヒントを得たいと思います。

2018年9月1日（土） 17時00分～18時30分 大会議室 1

登壇者



赤坂文弥

NTTサービスエボリューション研究所



木村篤信

NTTサービスエボリューション研究所



1-C1

当事者の声から考える

3枚の葉っぱワークショップ

NPO法人こまちぷらすは「子育てをまちでプラスに」を合言葉に、子育てが「まちな力」で豊かになる社会を目指し、横浜市戸塚区を拠点に活動しています。

子育てで孤立することなく、こどもの誕生が歓迎される社会をつくるために様々な社会的課題解決型事業を提案し、異なる立場からの視野の共有を図り、新たな価値の創造にチャレンジしています。その中で運営しているカフェや各種イベントを通して、子育て当事者をはじめとしたさまざまな方の「声」が集まってきます。

本セッションでは、独自に集めた介護・障がい・子育ての当事者の声をもとに、ダイバーシティや分野を超えた連携を考えるワークを体験いただきます。昨年度のサミットでもご紹介した「3枚の葉っぱ」のワークを、新たに作られた様々な立場の声を織り交ぜて行います。

「誰かの声」に触れ、そこで得た気づきを立場の異なる人と共有することを通して、ひとりひとりにできることを考えます。

2018年9月1日（土）10時00分～11時30分 大会議室 2

登壇者



大塚朋子

社会福祉士/介護福祉士
立教大学コミュニティ福祉学部卒業後、知的障がい者施設、地域ケアプラザ・地域包括支援センターにて勤務。NPO法人こまちぷらすでは2017年より「地域の居場所づくりと参加のデザイン」に取り組む「居場所づくりコーディネーター」として、対話のワークショップなどを主に担当。



佐藤貴美

准認定ファンドレイザー®。外資系市場調査会社等、10数年民間企業経験を経て、2013年より地域子育て支援拠点勤務。子育てサポートシステムコーディネーターを務める。2017年より現職。『葉っぱ』を使った「FOV+（職場環境改善研修）」ファシリテーター。

子育てを、まちでプラスに。

**comachi
plus**

1-C2

デザインを通して「わたし」を発見する

デザインとはカッコイイ絵を描くことや装飾をすることではありません。「当たり前」だと思っていたものごとに新しい可能性を見つけ、それを具体的にかたちにすることです。従って、デザインを考えることは誰もがとり組めます。現在では、イノベーションが必要とされるさまざまな現場で、このデザインの考え方が重要視されるようになってきています。

このセッションでは、頭と手と目を使って簡単なものづくりにトライしてもらいます。「かつて図工が苦手だった」とか「美的センス」などは一切関係ありません。デザインワークショップを通して、デザインの考え方と「わたし」に関する新たな視点を発見してみましょう。

2018年9月1日（土） 13時00分～14時30分 大会議室 2

登壇者



栗芝正臣
専修大学

専修大学ネットワーク情報学部准教授。インタラクションデザインや情報デザインの研究と教育に従事する。2016-2017年「認知症の人の社会共生と課題解決」のための学生による国際交流・共同研究プロジェクトに携わる。2017年デルフト工科大学客員研究員。



Designing “me”



1-C3 先端テクノロジーは10年後の介護・福祉 を変えられるか

超高齢社会、認知症社会の課題と向き合うべく、様々な分野で先進テクノロジーが開発されています。しかし、まだそれらのテクノロジーは介護・福祉の領域では馴染みの薄いものであり、現場での受け入れ可能性は未知数です。

本セッションでは、介護ロボットやAIスピーカー、脳波計測センサーの開発技術者3名を招いて、それぞれのテクノロジーがどのような開発現状なのかを機器に触れたりデモンストレーションを通して紹介します。そして、介護・福祉領域でどのように活用されていく可能性があるのか、そのために向き合うべき現場の課題などを、自由な視点で話し合いたいと思います。

そして、フロアとの対話を通じて、「近い将来の新しいコミュニケーション方法や人とテクノロジーの向き合い方」に関するヒントときっかけを、それぞれの参加者が得ることを目的とします。

2018年9月1日（土） 15時00分～16時30分 大会議室 2

オーガナイザー



西口周

株式会社
NTTデータ経営研究所

博士（人間健康科学）。
前職では、理学療法士として地方自治体の介護予防に関する調査・学術研究、アウトリーチ活動に従事。
現職では、高齢者の健康寿命延伸に資する自治体のデータ利活用の実証研究、ビジネスモデル策定支援業務を中心に、地域包括ケアシステムの機能強化に係る調査研究を担当している。

登壇者



梶谷勇

国立研究開発法人
産業技術総合研究所

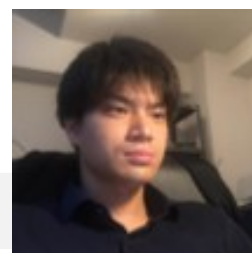
博士（工学）。国立研究開発法人産業技術総合研究所主任研究員。
1999年筑波大学大学院博士課程工学研究科修了。
障害者支援機器や生活支援ロボット等の社会導入や評価手法に関する研究に従事。



長田奉公

一般財団法人
日本福祉力検定協会

1972年サントリー株式会社宣伝部、マーケティング本部、情報システム部。
2004年定年退職と同時にサントリー株式会社嘱託契約でITのR&Dを担当。
2009年宇宙航空研究開発機構宇宙教育センターの宇宙教育推進コーディネータ（非常勤招聘）として中高生向け宇宙教育プログラムを担当、
2016年一般財団法人日本福祉力検定協会福祉ロボット担当として入社。



飯田剛史

株式会社
電通サイエンスジャム

現職の前には、マーケティング・リサーチ会社のデジタルマーケティング領域の営業に従事。
現職である電通サイエンスジャムでは、脳波を利用した感性把握技術によるマーケティング活動の支援や、新技術・新素材を用いたビジネス企画・開発業務に従事。

1-C4

映像という隣人

“映像という隣人”というテーマをあなたは突飛だと感じますか？ 私たちは福祉の分野で“映像の力”をどのように生かされていくのでしょうか？

本セッションでは、RUN伴のプロモーション映像/Web制作でクリエイティブ・ディレクターをされた田村祥宏さんとともに、「福祉の分野における映像の位置づけ」について改めて考えるとともに、田村さんが埼玉県横瀬市の中学生とともに行った映像のシナリオ化（企画プロット）のプロセスを体験していただきます。

田村さんとともに、“自分で領域の限界を決めない”、“アイデアは簡単に出る”、“答えの無いものほど作りやすい”、“作家/個人としての想いを持った作品”という学びを、具体的な作業も含めて感じていただければと思います。

【EXIT FILM 関連作品例】

“KUROKAW WONDERLAND” <https://kurokawawonderland.jp/>

“RUN TOMORROW” <http://runtomorrow.jp/>

“Wheelchair Dance” <http://exitfilm.jp/wheelchair-dance/>

“COLORS” <https://www.youtube.com/watch?v=QHjAwUTJEts>

“Bullying and Behavior” <http://exitfilm.jp/bullying-and-behavior/>

2018年9月1日（土） 17時00分～18時30分 大会議室 2

登壇者



岡田 誠

認知症フレンドリー
ジャパンイニシアティブ

認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ共同代表理事。セクターを越え、認知症に関わる社会的課題を起点としたプロジェクトを推進している。「旅のことば」（共同編者）。富士通研究所エキスパート、国際大学GLOCOM客員研究員、慶應SFC研究所上席所員。



田村祥宏

エクジットフィルム

EXIT FILM 代表取締役。ドキュメントムービーやプロモーションビデオ、映画などの映像コンテンツ制作を通じて、クライアントの課題解決や、社会課題の解決、そして自分たちの作家性の追求を目指している。WEB・音楽・スチール写真を専門とするクリエイティブセクターの仲間やテーマや課題を持った当事者とも協働し、コ・クリエーション的な手法による多角的なストーリーを持った世界観・ブランディング構築の企画・ディレクションを行っている。



1-A5

ウェルフェアイノベーションと 弱いロボット

特別イブニングセッション

「自律」の意味とはなんでしょうか？ 「ケア」と「弱さ」と
「ロボット」はどのような関係にあるのでしょうか？

【特別イブニングセッション】である本セッションでは、技術の福祉や
領域で、これまでにはなかった非常にユニークな視点での取り組みをされ
てきたお二人に、モデレータを含めた3人での対談形式で、リラックスし
た雰囲気の中でお話を伺います。

お話を伺うお一人は、シリーズケアをひらく「弱いロボット」の著者であ
り、非常にユニークな視点から人とロボットの関わりを考えてこられた豊橋
技術大学の岡田美智男教授です。岡田さんには、ロボット研究を通して見え
てきた「弱さ」の意味や価値のお話を伺いたいと思います。

お話を伺うもう一人は、福祉の視点からウェルフェアイノベーションのあ
り方を考え、推進されてこられた川崎市経済労働局の滝口和央係長です。滝
口さんには、これまで離れた世界であった産業や技術とが福祉と重なってい
くためには、何が難しく、何ができそうかを伺いたいと思います。

本セッションが目指す世界は、新しい明日の福祉のヒントです。

2018年9月1日（土）19時00分～20時30分 中会議室 2、3

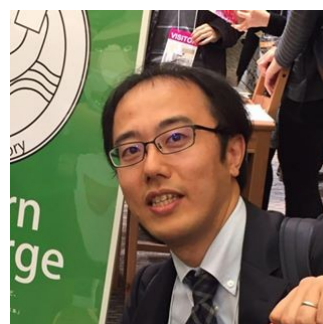
登壇者



岡田 誠
DFJI共同代表



岡田 美智男
豊橋技術科学大学



滝口 和央
川崎市役所

NTT基礎研究所情報科学研究部
、国際電気通信基礎技術研究所
(ATR)を経て、現在、豊橋技術
科学大学情報・知能工学系教授
。コミュニケーションの認知科
学、社会的・関係論的なロボテ
ィクス、ヒューマン-ロボットイ
ンターラクションの研究に従事
。著書「ロコモるコンピューター」
、「弱いロボット」（シリ
ーズケアをひらく）など。

経済労働局イノベーション推進
室担当係長。2002年川崎市役所
入庁。2016年より現職。これま
で、児童福祉・障害者福祉施策
の企画立案業務に携わる。現在
は、企業と介護福祉現場をつな
ぎ、介護福祉課題を解決する新
たなビジネスモデルの立ち上げ
を支援する業務に携わる。



第2日目 9月2日（日曜日）

スケジュール

	中会議室 2、3	大会議室 1	大会議室 2
9:30～10:00	受付		
10:00～11:30	2-A1 「対話のことば」活用 ワークショップ	2-B1 社会的処方研究所	
11:30～12:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
12:00～13:00	昼食		Zoom体験
13:00～14:30	2-A2 一足先に認知症になっ た私達からあなたへ	2-B2 DFC タグ付け大会	2-C2 音声コミュニケーション という魔法
14:30～15:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
15:00～16:30	2-A3 先進事例から考える私 達のまちの交通	2-B3 図書館×地域資源	2-C3 化粧外来
16:30～17:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
17:00～18:30	2-A4 介護現場のイノベーテ ィブなパターン	2-B4 みまもりあい プロジェクト	2-C4 「トイレで排泄」を諦 めないために
18:30～19:00	ネットワーキング	ネットワーキング	ネットワーキング
19:00～20:00	全体クロージング セッション		

2-A1

「対話のことば」の活用ワークショップ

本セッションでは、書籍「対話のことば」をベースに、対話とは何か、どのように日常生活や仕事に取り入れていくかといったことについて、ワークショップ形式で考えていきます。



2018年9月2日（日）10時00分～11時30分 中会議室 2、3

登壇者



長井雅史

SFC研究所上席所員

慶應義塾大学SFC研究所上席所員。
慶應義塾大学政策・メディア研究科
修士課程修了。米国CTI認定プロフ
ェッショナル・コーチ(CPCC)。大学院時代の対話の
研究を経て、独立。コーチングや対
話を通じて人や組織の発展に関わる
。共著書に『対話のことば オープ
ンダイアログに学ぶ問題解消のた
めの対話の心得』（2018年）



2-A2

わたしたちにとってのやさしいまちとは ～一足先に認知症になったわたしたちからあなたへ～

JDWG共同セッション

わたしたちの声に、（あらためて）耳を澄ましてみてください。
何があったらいいか、なにができるか、小さなことでいいから、一緒に考えて、一緒に動いてほしいです。

わたしたちがどこで暮らしているかで、体験も思いも、必要なことも様々です。

わたしたちの声の一つの手がかりとして、みなさんが暮らしている地域で、一人ひとりの声に耳を澄ます機会をどうか作ってください。

そして声を聴き流さず、今日を生きている当事者一人ひとりがより良い日々をくらしていけるための具体的なアクションを当事者と一緒に増やして欲しいと願っています

2018年9月2日（日） 13時00分～14時30分 中会議室 2、3

オーガナイザー



田中克明
DFJI

登壇者



永田久美子
JDWGパートナー
認知症介護研究・
研修東京センター



一足先に認知症になったわたしたち

（JDWGメンバーの方々）



2-A3

各地の先進事例から考える 私たちのまちの交通

交通エコロジーモビリティ財団バリアフリー助成事業
冠婚葬祭文化振興財団社会貢献基金助成事業

車の運転や行き先がわからないで電車に乗るなど外出に関する社会課題が注目されています。私たちが考える認知症にやさしい交通とは、認知症になっても好きな時に安心して目的地まで達することと定義しています。認知症になっても外出を諦めないためには何が必要でしょうか。

各地で地域の特徴に合わせた取り組みが少しずつ始まっています。京都・東広島などでは、交通事業者の人たちとともに、自分たちのまちの交通を考える取り組みを行っています。先進的な地域の事例を参考にしながら、自分たちのまちで、外出をあきらめない環境をつくるための取り組みについて話し合います。

本セッションの目的は、先進事例や他地域の方との対話から交通の課題を知ること、そして地元の交通問題について考えるはじめのきっかけとなることです。

2018年9月2日（日） 15時00分～16時30分 中会議室 2、3

登壇者



松本 恵生

岩倉地域包括支援センター



清水 真弓

地域リハビリテーション支援センター



牛尾 容子

エスティーム



松原 淳

交通エコロジー
モビリティ財団



前田 亮一

ビーンズ
地域総合ケアセンター

主任介護支援専門員。佛教大学社会福祉学科卒業。医療機関にて地域連携室・MSWを経て2008年より現職。京都市地域包括協議会副会長。2018年、清水氏・松原氏らと共に、左京区NHK厚生文化事業団認知症にやさしいまち受賞
剛柔流空手3段指導員

理学療法士。京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター副センター長/コーディネーター。地域におけるリハビリテーションの支援相談に関わっている。

作業療法士。認知症介護指導者。約30年の老健勤務後、昨年退職。現在認知症になっても自分らしく幸せに暮らせる地域を目指し活動中！

違いのわかる男：松原です。バリアフリーなどに取り組みながら障害を負っても出歩けるまちづくりに汗をかきながらも10年前に働きすぎで倒れて自身に障害を負ってもはい上がり、今度は自身が認知症になっても偏見がない出歩けるまちづくりに取り組む技術士です。

DFJI交通プロジェクトを2015年にスタート。交通エコロジーモビリティ財団「認知症者の交通機関利用に関する対応マニュアル作成ワーキング」メンバー。作業療法士。つくばにて認知症当事者と仲間の会「カフェロマン」にて活動中

2-A4 介護現場でのイノベティブな 取り組みに関わる「ことば」

本セッションでは、現在進行中の、介護現場、特に認知症分野のイノベーターの方々が持つ実践的な工夫を共有可能な「ことば」にまとめるというプロジェクトについて発表します。

「パターン・ランゲージ」の手法を用いて、日本の先進的な事例である、銀木犀の下河原さん、DAYS BLG!の前田さん、あおいけあの加藤さん、きずなやの若野さんたちが実践している「工夫」や「大切にしていること」の「ことば」を作成しています。

これまでの進捗と展望について共有するとともに、完成後、実際の介護現場へどのように展開していけばよいか、みなさんと一緒に話し合いたいと思います。

2018年9月2日（日） 15時00分～16時30分 中会議室 2、3

登壇者



金子智紀

慶應義塾大学大学院

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程。井庭崇研究室所属。

「旅のことば」作成メンバー。NPO法人認知症フレンドシップクラブ 本部スタッフ。Dementia Friendly Japan Initiative メンバー。



2-B1

まちのつながりを「お薬」に変える ～社会的処方研究所

認知症やがんなどの病気を抱えた時、大きな問題になる「孤独」。医者は、薬を出したり検査をしたりということはしてくれても、コミュニティの中で病気を抱えてどのように生きていけばいいのか？ということへの答えは出してくれません。

このとき、体操や音楽、ボランティアなどを紹介することで患者さんや家族がコミュニティとつながり、健康度や幸福度を上げる仕組みがあったとしたら？

イギリスでは、実際に患者さんと社会資源を結び付けることで患者さんをサポートする専門家が活躍しています。

そして2018年には、日本でもこの仕組みを取り入れようと「社会的処方研究所」が立ち上がりました。

薬と同じように「社会とのつながり」を処方するから社会的処方。

日本で社会的処方はどうやって利用できるのか？このワークショップの中で一緒に考えましょう。

2018年9月2日（日） 10時00分～11時30分 大会議室 1

登壇者



西智弘
プラスケア

腫瘍内科医・緩和ケア医。2017年に、まちの中で気軽に医療者とつながれるカフェ「暮らしの保健室」を運営する会社「一般社団法人プラスケア」を立ち上げ。2018年には、社会的処方研究所を立ち上げ、まちの中で医療が果たせる役割を追求している。



川崎で開催されている社会的処方研究所。ここでは市民が中心となって、認知症の方々などに役立つ社会資源について意見を出し合っています。



2-B2

DFC (Dementia Friendly Community) タグ付け大会

現在、認知症に関する取り組みが様々な場所で生まれています。その実践やアイデアをまとめ、わかりやすく紹介することで、よりよい「まちづくり」に役立てていただけるような本を、DFJIの皆さんと制作中です。

議論の中で、様々な実践のポテンシャルを十分に表現するため、InstagramやTwitterのように、一つの事例に対して複数のタグをつけるというアイデアが生まれました。今回のワークショップでは、グループで議論をしながら、26の事例について、その特徴をタグという形で表現していただきます。

5月に同ワークショップを行った際には、大変活発な議論が生まれ、「こんな事例知らなかった」「たくさんの事例をまとめて知ることによって視野が広がった」など、大変好評でした。多くの方にご参加いただき、幅広い事例に触れていただくと同時に、多様な視点をご提示いただきたいと思います。

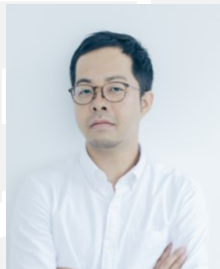
2018年9月2日（日） 13時00分～14時30分 大会議室 1

オーガナイザー

登壇者



岡田 誠
DFJI 共同代表



河野 禎之
筑波大学



平野 貴裕
英治出版



下田 理
英治出版



徳田 雄人
DFJI 共同代表

英治出版プロデューサー。無業者支援のNPOで教育支援事業を2年間担当し全国の高校をまわる。その後、2016年に英治出版に参画。教育関係や、貧困などの社会問題に関心がある。主な担当作品：『Learn Better』

英治出版プロデューサー。2010年に英治出版に参画。「人がよりよい社会をつくるために、どんな活動や組織のあり方が可能なのか？」という問いのもと、ソーシャルビジネス、平和構築、組織開発、教育分野の本を手がける。主な担当作品：『ティール組織』

2-B3

自分のまちで実現！

図書館×地域資源のまちづくり

今図書館が注目を集め始めています。図書館を中心としたまちづくりや地域づくりが始まっています。DFJI1では、2015年より「認知症の人にやさしい図書館プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、関西に飛び火し大きく発展しています。

本セッションでは、関西認知症にやさしい図書館プロジェクトが開催した過去7回のフォーラムでは、図書館、福祉、行政などのクロスセクターの協働を後押ししてきました。コラボレーションは医療機関、子ども会、高校生など多領域、多世代に広がっています。地域の強みを生かした図書館との地域のReデザインを考えていきます。

そして、フロアとの対話を通じて、「図書館を起点とした認知症に人にやさしい地域づくり」の実現に向けたヒントときっかけを、それぞれの参加者が得ることを目的とします。

2018年9月2日（日） 15時00分～16時40分 大会議室 1

オーガナイザー

登壇者



河上崇陽

DFJI

子供のころ、図書館に入り浸っていた会社員。イギリスのプリマス市や川崎市立宮前図書館で展開している「認知症にやさしい図書館」運動に共鳴し、関西・認知症にやさしい図書館プロジェクトの立ち上げに関わる。

Dementia Friendly Japan Initiativeメンバー。



山川みやえ

大阪大学

看護教育・研究者。愛知県立図書館と鶴舞図書館は常連だった。病気になったとしても困らないような各人の自律をうながす環境づくり、ケア技術の開発が目標。関西図書館プロジェクトのとりあえずの代表。そのうちフェードアウトする予定。公益財団法人浅香山病院と大阪大学医学系研究科で働いている。



小川敬之

京都橘大学

作業療法士（経験33年）、京都橘大学健康科学部作業療法学科教授。認知症治療棟、重度認知症デイケア、特養、グループホームなどの臨床経験を経て九州保健福祉大学（宮崎県）へ。今年4月から現大学に移動。地域共生社会に向けた実践研究、就労に力注いでいます。NPO法人地域支援センターつながり理事長、社会的企業SA・Te黒潮副代表兼ダイバーシティ開発部部長



清水美代子

高砂市

高砂市「つなぐ手と手～広げようやさしいまちづくり～の会」兵庫県の保健所等保健師を経て、2013年、ひょうご若年性認知症生活支援相談センターの開設支援。傍ら、居住地で、若年性認知症の本人と家族支援を起点に、全ての人が安心して暮らせるまちづくりを目指した活動を始める。2017年より、高砂市立図書館の協力を得、図書館のバリアフリー月間において、子ども会や障がい者団体等とも連携した事業を行っている。



舟田彰

川崎市宮前図書館

川崎市へ一般事務職として入庁。社会教育主事として公民館勤務を経て、現在、川崎市立宮前図書館勤務。日本医学図書館協会「医療・健康情報委員会ワーキンググループ」委員、日本図書館協会「健康情報委員会」委員。「認知症の人にやさしい小さな本棚」という常設コーナーを設置し、誰でもが安心して利用できる図書館を目指し、できることは何かを模索中。



田中克明

DFJI

2-B4

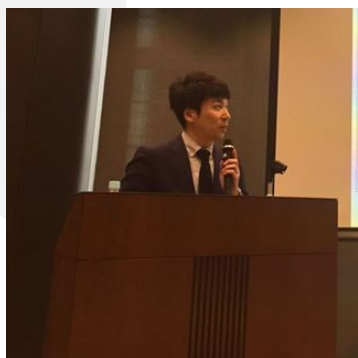
みまもりあいプロジェクト

「みまもりあいプロジェクト」開始1年の成果と今後の可能性について
＜開始1年間の成果＞

- ① H28年度厚生労働省介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業受託（H29年3月末終了）
- ② H29年4月開始以降導入自治体10か所（福岡市、柏市、八王子市、豊中市、笛吹市、山梨市、富士吉田市、富士河口湖町、上野原市、焼津市）
- ③ H29年度メディア掲載数＝「NHKニュース7、おはよう日本等約56回
- ④ 開始1年間の全国アプリダウンロード数＝約35万（メールアドレス登録型）
- ⑤ 東京大学等主催H29年度アーバンデータチャレンジアプリ部門金賞受賞
- ⑥ H29年度オープンガバメント推進協議会（12自治体参画）銅賞を受賞
- ⑦ H30年7月東京海上日動火災保険株式会社と共同で認知症関連の保険を共同開発「みまもりあいプロジェクト」を保険に導入

2018年9月2日（日） 17時00分～18時30分 大会議室 1

登壇者



高原達也

社団法人セーフティネットリンケージ代表理事

前職ベネッセコーポレーションにて主に新規事業関係に関わる①保育施設開発

②「たまごクラブ・ひよこクラブ」

③「いぬのきもち」

④ベネッセウィメンズパーク(500万人女性限定口コミサイト)新規事業開発、独立して当社団設立代表理事。

社団法人 セーフティネットリンケージ

SAFETY NET LINKAGE



みまもりあい
プロジェクト

2-C2

音声コミュニケーションという魔法

高齢で認知症の方は難聴を併発していることが多く、難聴？認知症？の判断は非常に難しいため、介護施設において認知症の進行と判断されているケースが多数あります。

本セッションでは、世界的にも注目されている認知症と難聴の関係性を脳機能からのアプローチより詳しくご説明しつつ、介護従事者による高齢者の聴力の把握の重要性を広島大学宇宙再生医療センター聴覚リハビリテーショングループの研究者である中石氏と、認知症高齢者グループホーム「愛の家」を全国で運営し認知症ケアに取り組むメディカル・ケア・サービスの認知症対策室の室長である中本氏に起こしいただき、音声対話による脳刺激の重要性と認知症グループホームでの対話支援システムを使った認知症の方の反応の変化についてお話をします。

そして、フロアとの対話を通じて、「認知症に人との最適な音声コミュニケーションの実現」に向けたヒントとノウハウを、参加者の皆さんが得ることを目的とします。

2018年9月2日（日） 13時00分～14時30分 大会議室 2

登壇者



中石真一路

ユニバーサルサウンドデザイン株式会社
広島大学宇宙再生医療センター研究員

世界初となる耳に装用しない卓上型対話支援システム「comuoon」の発明者であり、広島大学宇宙再生医療センターにおいて聴覚リハビリテーションの研究に携わる。2017年4月には、米国で開催された米国脳科学関連学会において「comuoon」の脳科学的視点からの語音弁別の有用性を発表し、研究成果は米国神経学関連誌「Neuroreport」に掲載され世界的に注目を集めている。



中本恭太郎

メディカル・ケア・サービス株式会社

2004年メディカル・ケア・サービス(株)入社。グループホーム施設長、エリアマネージャーを経て、教育研修、品質管理、経営企画室を歴任。
2012年から中国・マレーシアでの介護施設の開設・運営・教育およびコンサルティングを担当。
2017年9月に認知症戦略室を新設し、認知症予防事業、認知症ケアのIT開発を担当。



universal
sound
design®

2-C3

化粧外来

病気や加齢などに伴う外見的なお肌の悩み。見た目の印象が与える意味を、化粧の観点から皆さんと共有します。実際に化粧外来で行われている一部を体験して頂きます。

2018年9月2日（日） 15時00分～16時30分 大会議室 2

登壇者



河村しおり

日本臨床化粧療法士協会

北海道札幌市生まれ。
2002年指定難病SLE発病。
一時寝たきりになるものの、長きに渡る闘病とりのちからにより社会復帰を果たす。
2012年～理美容ディーラー業を経て、2017年4月本臨床化粧療法士協会を設立。
独自の経験から、お悩みカバーのための臨床化粧の指導や化粧外来の運営、高齢者向け化粧アクティビティの推進に尽力。



2-C4 「トイレで排泄」をあきらめないために

普段、私たちが無意識にできている沢山のこと。

「歩く」「話す」「笑う」「息をする」「伝える」
「見る」「意識する」「考える」「感じる」etc.

そして「トイレで排泄行為をする」もそう。

しかし、それらは「ある事象」をトリガーにして、いとも簡単にできなくなってしまう。

「認知症」です。

こちらのセッションでは、
それぞれの参加者がフロアとの対話を通じて、

- ・排泄の課題とはそもそも何か？
- ・排泄の各課題をどのようにして解決に導くか？
- ・「トイレ排泄」実現のために必要なことは何か？

についての答えを、能動的に獲得することを目的とします。

2018年9月2日（日） 17時00分～18時30分 大会議室 2

登壇者



草西 栄

Triple W Japan K.K

認定排泄ケア専門員。

（NPO法人日本コンチネンス協会）
サービスローンチ前は、1年の約1/3
を施設で生活しユーザーに寄り添っ
たサービスをDFreeを開発。

現在は活動を海外にも広げ日本、欧
州、米国にて自社サービスの導入支
援を中心に施設や病院の排泄ケア環
境改善プロジェクトに取り組む。

夢は川崎市長。



大西 安季

ハウオリホーエア訪問看護ス
テーション

理学療法士。ハウオリホーエア訪問
看護ステーション所属。

回復期病院、クリニック勤務を経て
、高齢期の訪問リハビリテーション
に従事。加齢に伴う排泄障害と認知
機能、精神機能の関連性に着目した
臨床研究を開始。



D free





Supported by



THE NIPPON
FOUNDATION

The logo for The Nippon Foundation is green. It consists of a stylized face with two raised hands above it, followed by the Japanese characters '日本財団' (Nippon Foundation) in a bold, sans-serif font.